



昭和小だより

No.10

文京区立昭和小学校

令和2年1月31日
校長 杉本 謙

『教育のイノベーション』

副校長 岡 文也

皆様は、昭和小学校の教育に何を期待されるでしょうか。

それぞれたくさんの思いをもたれると思います。その中でも、より良い教育が展開され、子供たちに今後の人生をより良く生きるための資質や能力が身に付くことは、一様に期待されることではないでしょうか。

そのためには、子供たちがこれから生きる社会がどのようなものか、より深く理解する必要があります。私たちは、私たちが良いと思っている教育の在り方は、当然今の子供たちにとっても良いと思いがちであると感じます。そうした場合もありますが、今日、インターネットにアクセスすることで様々な情報が得られ、多くの知識はデジタル化され、簡単な認知と技能は、AIなどにアウトソーシングされてきています。私たちの仕事であっても、急激に変化する時代にあっては、知識の蓄積はこれまでほど、大きな意味をもたなくなってきました。今の子供たちには、私たちが行ってきたような既に定着している内容の知識を再生産するような学習または評価ではなく、知識を活用して他者と協力し、未知の状況において知識を応用する学習が求められています。

私たちは今、教育についての考え方を大きく転換させる必要があると思っています。

今日イノベーションと呼ばれるものは、独立した個人が一人で成し得た作業の成果であるということは少なく、むしろ知識をいかに動員し、多数で共有し、結び付けたかという結果であり、優れたチームの作業の成果ではないでしょうか。

こうして考えると、何かを探求しようとする意欲、ひた向きに学んだり、やり遂げたりしようとする勤勉性、すすんでチャレンジしようとする外向性、他者と協働して解決しようとする協調性、逆境や否定されたときに立ち向かえる精神力など、学校のテストでは測ることが難しい力こそ、今の子供たちにとって必要な力であると思います。

これまで学校では、それぞれに違う子供たちが同じような方法で教えられていました。これからは、子供たちの多様性に対応した教えた方をしていく必要があります。これが課題になっています。

ではどうすれば良いでしょうか。学校の教育の質は、学校の教職員の質を上回ることはありません。教員の資質・能力の向上を図ることが教育の質的向上につながります。多忙感のある教育界にあっても、これを忘れず、教育の変革、イノベーションを求めていきます。ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

～教室の窓から～

図工主任 茂木 美穂

今年度の学習発表会は、音楽・図工・家庭科を中心とした表現活動、創作活動を通しての発表です。11月の音楽発表に続いて、1月は校舎内を使い図工・家庭科・書写の作品発表が行われました。図工では1学期からそれぞれが自分の作品に思いを込めて、ていねいに作品を作り上げてきました。自分なりのアイデアを工夫して作ったり、お互いの作品を見てすてきなところを見付け合ったり、また友達のアイデアに刺激を受けて発想を広げたりと、子供たちが自分の思いを大切に作る姿、そして友達の思いを感じて大切にしようとする姿を多く見ることができました。作り始めても「できないからまあいいや」と弱い気持ちに負けることもありますが、弱い気持ちに打ち勝って唯一の作品作りを頑張った子は確実に感性の幅を広げていきます。学習発表会にはそんな子供たちのすてきな作品で校舎を彩ることができました。そして、その伸びやかな子供たちの作品を見たたくさんの保護者の方から子供たちへ、お褒めの言葉をいただきありがとうございました。皆様の温かいお気持ち、お言葉が太陽のようにふりそそぎ、子供たちをまっすぐ骨太におおらかに育てるのだと思います。私たち教員もたくさん褒めていただき明日への活力をいただいております。これからも、子供たちが満足感と自信を持って作品作りを楽しむことができるように教育活動に前向きに取り組んでいきたいと思っています。